

# 秋田市における発掘調査報告書のデジタル化と公開について

神田和彦（秋田市役所文化振興課）

Digitizing and Publishing Archaeological Excavation Reports in Akita City

Kanda Kazuhiko (Akita City, Culture Promotion Section)

・多忙な日々／Busy days・「零細」自治体／“Small-scale” municipality

・強い意志／Strong will・恩返し／Giving back

## 1. はじめに

秋田市では、文化振興課と秋田城跡歴史資料館の2つの機関で埋蔵文化財発掘調査報告書（以下、「報告書」という）の作成を行っている。文化振興課は緊急発掘調査等の報告書を年に1冊以上、秋田城跡歴史資料館は秋田城の保存目的調査の報告書を年に1冊刊行している。秋田市全体としては年に2～3冊の報告書を刊行している。これまでに秋田市では127冊の報告書が刊行されているが、2021年12月1日現在までに123冊、全体の約97%の報告書を全国遺跡報告総覧でPDF公開している。

本市としては、全国遺跡報告総覧への報告書の公開は積極的に行ってきた。秋田市は、埋蔵文化財に関わる人員も少なく、埋蔵文化財担当職員は、他の業務を抱えながら発掘調査をこなさなければならない典型的な「零細」自治体である。こうした「零細」自治体の場合、全国遺跡報告総覧への公開は、後回しになってしまう業務の一つである。国の取組で、それが素晴らしい仕組みだとしても、義務的でない仕事は、日々の多忙な業務に埋没していくのが常である。そうした中、どうして秋田市は全国遺跡報告総覧にほぼ100%公開してきたのか、その経緯と動機を記すことが、同じような「零細」自治体が、当該事業に参画しようとする一助になればと思う。願わくは、「零細」自治体の多忙な埋蔵文化財担当職員に、この文章が届きますように。

## 2. 報告書デジタル化と公開に至る経緯

### (1) 報告書PDFデータの作成

秋田市は平成14～15年度（2002～2003年度）に秋田市文化財情報公開事業を行った。これは当時厚生労働省の緊急雇用創出特別基金事業を使った事業であり、財源は国庫100%であった。この際に、秋田城跡およびその他市内遺跡のカラーライド（約26,300枚）、遺物カード（約17,000枚）、刊行済みの報告書（73冊）のインデックス作成とスキニング作業を行った。このときは、特に報告書のPDF公開を目指して行ったわけではない。ただ、報告書のPDFのデータがあると便利だろうな、と思って仕様に入れた軽い気持ちだった。その後、この作業により平成15年度以前の報告書PDFは完了していた。平成15年度以降の報告書は、PDFデータも納品するよう仕様に明記するようになった。この頃から印刷業界でDTPが主流になり、PDFの生成が容易になったからである。このようにして、秋田市は職員自らスキニング作業することなく、偶然にもすべての報告書PDFが手元にあった。

### (2) 公開作業へ

#### ① PDF公開へ欲求

秋田市文化振興課では平成22・24年度（2010・2012年度）に、再び厚生労働省の緊急雇用創出特別基金事業で、出土遺物再整理事業を行った。平成22年度（2010年度）に『地蔵田遺跡（旧石器時代

編』、平成24年度(2012年度)に『下堤G遺跡(旧石器時代編)』出土遺物再整理事業を行い、それぞれ正報告書を刊行した<sup>1)</sup>。これは個人的に大変思い入れの強い事業だったので、作成した報告書は、できるだけたくさんの人に配布したかった。貴重な旧石器の資料群であったため、幸い多くの旧石器研究者から頒布希望があった。しかし、秋田市文化振興課では、増刷・販売する外郭団体や手段をもっていなかった。苦肉の策として、秋田市Webページで報告書PDFおよび属性表(Excelデータ)の公開を行った<sup>2)</sup>。当時、秋田市の場合、各課所室がWebページを作成していたため、そうしたことが可能だった。しかし、当時の市役所の基準を超える重いファイルを公開していたため、市役所サーバーへの負荷が懸念されていた。

#### ②文化振興課分の報告書PDF公開

重いファイルを市役所サーバーにアップしたものの、Webページの管理部門からいつ注意を受けるか、ずっと心配だった。平成24年(2012年)頃に、東北大学や秋田県埋蔵文化財センターの職員から、「遺跡リポジトリ」(現・全国遺跡報告総覧)の存在を教えてもらった。なんと、無料で参画でき、サーバーの管理や経費を気にしなくても良い、ということだった。早速、平成25年4月には、文化振興課発行分を公開の手続きをとった。この時は、秋田大学附属図書館の担当者にメタデータと報告書PDFを渡すことで公開することができた。メタデータの作成は、大変であったが、当時、新人の事務職員が快く手伝ってくれた。自分一人で抱えていたらメタデータ作成すらできなかつたらう。当時手伝ってくれた職員に大変感謝している。

#### ③秋田城跡歴史資料館発行分の公開

秋田城跡調査事務所(現・秋田城跡歴史資料館)は、任意団体である「秋田城を語る友の会」が秋田城の報告書を増刷・販売していた。1980～1990年代は報告書が売れる時代であったが、2000年代以降販売不振に陥っていた。最終的に平成23年度(2011年度)以降は、販売不振・資金不足を理由に増刷を中

止する事態となっていた。そこで、平成25～27年度(2013～2015)の約3年かけて、PDFの収集、整理、メタデータの作成を行った。この時も、庶務の事務職員がメタデータを作成してくれた。

平成27年度(2015年度)の段階で、現状で発行している報告書は、すべて全国遺跡報告総覧で、PDF公開されたこととなった。平成29年度(2017年度)以降は、これまで手伝ってくれた秋田大学附属図書館の手を離れ、セルフアーカイブしていくこととなった。

### (3) 公開してからの活用

#### ①学会での利用

平成28年度から日本旧石器学会データベースの改訂作業が各都道府県で始められた。これは旧石器時代遺跡の位置をGoogleMapで表示し、文献を全国遺跡報告総覧のURLで関連づけるものであった。秋田県内の旧石器時代遺跡の報告書は、秋田県と秋田市発行のものでほぼ網羅されるため、こういった作業の際に非常にスムーズで、秋田県は全国に先駆けて平成28年度にその作業を終えることができた。

#### ②研究者、市民への情報提供

秋田城跡歴史資料館のWebページでは、刊行物一覧に全国遺跡報告総覧のURLのリンクを添付し、公開している<sup>3)</sup>。これは、研究者やボランティアガイドなどが利用し、大いに活用されている。

### 3. 秋田市で公開できた理由

全国遺跡報告総覧に報告書のPDFを公開していく作業は、「零細」自治体では、邪魔はされないものの、推奨されることもない。「零細」自治体の組織的にはその存在を知られることもなく、事務分掌にも現れない、やってもやらなくても良い仕事のひとつである。限られた担当者がコツコツとやる以外にない。そのような「零細」自治体である秋田市でも、公開できた理由は、次の3点に集約されるだろう。

【要因1】「蓄積」…秋田市はたまたま過去の報告書のPDFが既にあった。

【要因2】「環境」…メタデータ作成を手伝ってくれ

る事務職員が存在した。また、初期に始めたため、大半のアップロード作業は秋田大学附属図書館が行ってくれた。

【要因3】「動機」…報告書の増刷・販売ができなくて困っていた。独自公開していた時は、市役所サーバーへの負荷が心配だった。そして報告書はPDFで公開していくべきだという強い意志があった。

言い換えれば、「零細」自治体が報告書PDFの公開を行うには、この3つのハードルがあるといえる。

要因1「蓄積」については、近年は比較的ハードルが下がっている。今後作成される報告書は、作成時にPDFの生成は容易であるし、過去の報告書を自分たちでスキャンすることも、オフィス複合機の発達により、一昔ほど大変ではない。要因2「環境」についても、理解し手伝ってくれる事務職員は皆さんの身近にもきつというはずだ。

最も重要なのは、要因3の「動機」といえるだろう。秋田市の場合は、サーバーが無料で使わせてもらえるという金銭的な動機や市役所のサーバーに負荷をかけているという後ろめたさの他に、秋田市の考古資料は価値があって、それをできるだけ多くの人に知ってもらいたい、少なくとも報告書は誰でもアクセスできるようにしたい、という担当者としての強い意志があった。多くの「零細」自治体の担当者にとって、この業界の仕事で、どんなに困難があったとしても、立ち向かっていけるのは、「うちの街の文化財は、他に負けない素晴らしいものがある」という想いであり、意志ではないだろうか。この動機は、全国遺跡報告総覧でのPDF公開でも同じだと思う。

個人的には、仕事を離れ、自分の研究に向き合ったとき、全国遺跡報告総覧で報告書のPDFが上がっている場合は、非常にありがたかった。近くに大学などの研究機関もない環境であるため、必要な報告書を入手することが困難で、ずっと苦労してきた。今は、とても良い時代になったと思う。誰かが報告書PDFを公開してくれる行為が、地方に在住し、地域研究に取り組む者を助けてくれるのである。こう

した恩恵を受けているのであれば、自分たちが作成した報告書も、誰かの役に立つはずである。全国遺跡報告総覧に自分の自治体の報告書を公開することは、いわば「恩返し」のようなものである。こうした「恩返し」のような想いは、報告書公開に向けて作業を進める動機の一つになるのではないだろうか。

## 4. 展望と課題

本市の展望と課題は次の3点である。

- ・「地蔵田遺跡（旧石器時代編）」と「下堤G遺跡（旧石器時代編）」では、報告書では掲載できなかった石器属性表を当該報告書のページに公開した。こうした調査研究に資するデータ類を、紐付けしていく活用方法もあるだろう。
- ・現在は埋蔵文化財の発掘調査報告書のみの公開だけであるが、保存管理計画や環境整備事業報告書なども発行している。これらを公開していくことの必要性を感じている。逆に、他都市の遺跡の保存管理計画等が公開されていると、非常に有用であると思う。
- ・埋蔵文化財の発掘調査報告書だけでなく、建造物や民俗文化財の調査報告書を刊行しているため、これらの公開も検討していきたい。

### 【補註】

- 1) 秋田市教育委員会2011『地蔵田遺跡（旧石器時代編）』  
秋田市教育委員会2013『下堤G遺跡（旧石器時代編）』
- 2) 地蔵田遺跡 秋田市役所Webページ  
<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/rekishi-bunka/1011795/1010787/1002234.html>  
下堤G遺跡 秋田市役所Webページ  
<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/rekishi-bunka/1011795/1010787/1002236.html>
- 3) 秋田城跡歴史資料館Webページ  
<https://www.city.akita.lg.jp/kankokanrenshiset-su100361610097961009797.html>